

2023



公益財団法人 日本海事センター Japan Maritime Center

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル8階

総務部／業務部

TEL. 03 (3265) 5481 FAX. 03 (3222) 6840

E-mail: jpmac-head@jpmac-honbu.jp

企画研究部

TEL. 03 (3263) 9421 FAX. 03 (3264) 5565

E-mail: planning-research@jpmac.or.jp

海事図書館 ※2022年3月に海運ビルから移転しました

TEL. 03 (3263) 9422 FAX. 03 (3265) 5035

E-mail: library@jpmac.or.jp

海事センタービル事業部

TEL. 03 (3265) 2961 FAX. 03 (3265) 2962

E-mail: contact@macbld.co.jp

URL <https://www.jpmac.or.jp>



公益財団法人 日本海事センター
Japan Maritime Center

はじめに

公益財団法人日本海事センターは、1964年に設立された日本海事財団と財団法人日本海運振興会の両法人を統合して2007年4月に発足し、2011年4月に従来の民法法人としての財団法人から「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づく公益財団法人に移行致しました。

当センターは、世界経済の急激な変化や、日々複雑化する海事関係の諸課題に的確に対応していくため、海事関係の各種調査研究・政策提言、海事関係公益活動の支援、海事図書館の運営、を3つの柱として活動を行っています。

基本理念

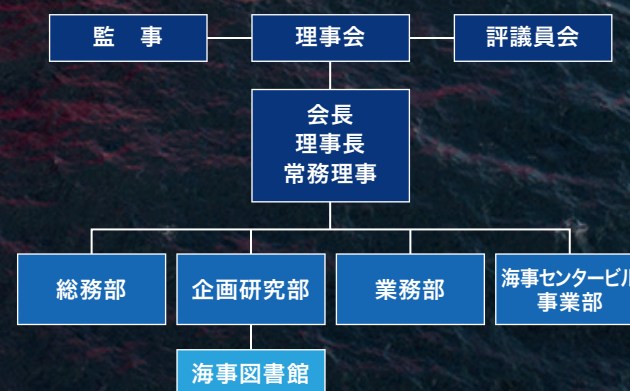
- ① 海事社会の中核的なシンクタンクとして、海事産業界、行政機関及び研究機関等の連携と協働に貢献します
- ② 我が国の経済社会に必要な海事産業界の発展に貢献します
- ③ 海事分野における中核的な機関として公益事業推進に貢献します
- ④ 安全・安心な海事社会の実現に貢献します
- ⑤ 環境との調和を目指す海事社会の実現に貢献します
- ⑥ 海事社会の国際的な活動に貢献します

海事関係の
各種調査研究・
政策提言

海事関係
公益活動の
支援

海事図書館の
運営

組織図



当センターの活動は、一般社団法人日本船主協会および日本水先人会連合会からの支援を受けています。

ご挨拶

四面を海で囲まれた我が国では、輸出入貨物量の99%以上を海上輸送が担うなど、経済・社会活動や国民生活における海上輸送の重要性は極めて高く、これを支える我が国の海事産業は大きな役割を果たしています。

COVID-19のパンデミックの影響で、グローバルサプライチェーンの混乱は継続したものの、2022年夏以降、ウクライナ危機を受けた欧州の景気減速、インフレによる米国の消費の冷え込みなどもあり、全体として港湾の混雑は解消し、コンテナ輸送の需給も落ち着いてきました。しかしながら、依然として、エネルギー価格が高騰し、経済安全保障上の対応が迫られるなど、変化の激しい不安定な国際情勢が我が国の海事社会に大きな影響を与えています。また、国際海運においては温暖化ガスの排出削減・脱炭素など地球規模の気候変動対策への取組が喫緊の課題となっています。さらに、遠隔操縦が可能な自動運航船の実用化などの海事イノベーションの推進に向けた様々な取組も進んでいます。

公益財団法人日本海事センターは、海洋国家である我が国の発展に貢献するため、海事関係の各種調査研究・政策提言、海事関係公益活動の支援、海事図書館の運営を3つの柱として活動しています。

2022年3月からは新たにオンラインを活用した「JMC海事振興セミナー」を継続的に開催しています。また、当センターと海事図書館のロゴマークを制作したほか、年間の事業成果をとりまとめた報告書「JMCレポート2021」を発行し、英語版パンフレットも新しく制作するなど、昨今の状況に対応して各種の取組を進めております。今後当センターの事業については、PDCAサイクルに基づき不断に内容の充実を図っていく所存です。

当センターは、流動化する国際情勢や激変する世界経済の動向を踏まえつつ、複雑化する海事関係の諸課題に対して的確に対応していくため、海事社会の中核的なシンクタンクとして、海事産業界、行政機関および研究機関等の連携と協働に貢献するとともに、海事産業の発展、海事分野の公益事業の推進、海事思想の普及と海事分野の様々な事象への正しい理解の増進のために、ますます大きな貢献を果たしていきたいと考えています。

当センターの取組や活動に対する皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

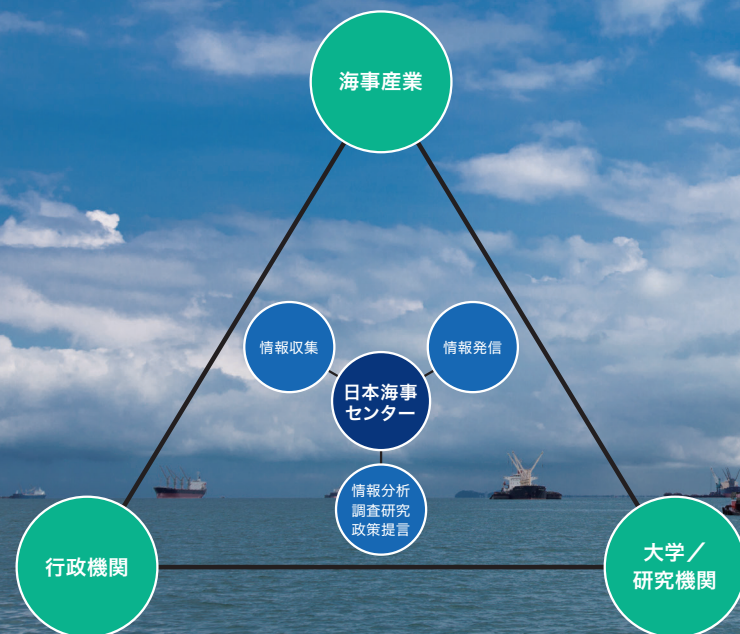


2023年4月

公益財団法人 日本海事センター
会長 宿利 正史



海に関する中枢的なシンクタンクを目指して



調査研究・政策提言

各種委員会を核とした調査研究活動

産官学の有識者や実務責任者が参画した海運問題研究会を運営し、調査研究・政策提言活動を行っています。海運問題研究会には、調査研究・政策提言などの事業の基本方針、総合戦略などについて審議する場である『総合企画会議』と、総合企画会議のもとに個別テーマに対応する『委員会』が設置されています。

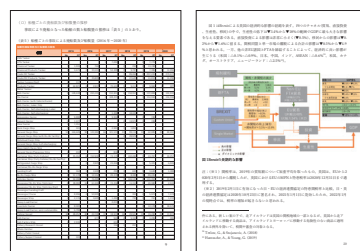


最近の海事社会をめぐる動向や国際情勢を踏まえ、海事社会のニーズを的確に把握し、海洋国家・海事立国として我が国が目指すべき方向に沿って、産官学の関係者との連携・協働の下、以下の活動を行っています。

- 外航海運を中心とした海事産業の持続的発展への貢献
 - 気候変動対策としての国際海運の脱炭素化への対応
 - 海事人材の確保・育成
 - 外航海運の国際競争力強化への貢献
 - 海事イノベーションの推進と新たな市場への進出
 - 海事クラスターの発展への貢献
 - 東アジア・ASEANを中心としたグローバルサプライチェーンの進展への対応
 - 国際海事機関(IMO)等における国際ルール策定への我が国の主導的な役割への貢献
- 安定的な国際海上輸送の確保と我が国の経済安全保障へ貢献
- 国内外の海上輸送動向等の把握・分析
- 船舶による油濁損害等への賠償及び補償への対応 等



調査研究発表



調査研究報告書

国際活動の推進

国際機関との連携と国際会議への参加

国際海事機関(IMO)、国際油濁補償基金(IOPCF)、国際労働機関(ILO)等とのハイレベルな連携を図るとともに、これらの機関の会合に日本代表団の一員として参加しています。

キータック・リムIMO事務局長との会談
(2022年9月)シバトセンIOPCF事務局長との会談
(2022年9月)

MEPC79会議への出席(2022年12月)

外部機関との連携

世界海事大学(WMU)との連携等

スウェーデン・マルメにある世界海事大学(WMU)と学術協力に関する協定を締結し、共同研究や研究者間の交流を行うことで、世界の海事社会に対してアンテナを張りつつ、調査研究の手法を磨いています。また、WMU及び国際油濁補償基金(IOPCF)との間で、それぞれ共同して研究成果の発表等を行う連携事業を2023年度中に行う予定です。



世界海事大学にて(2022年9月)



WMU-Sasakawa Global Ocean Instituteを視察(2022年9月)

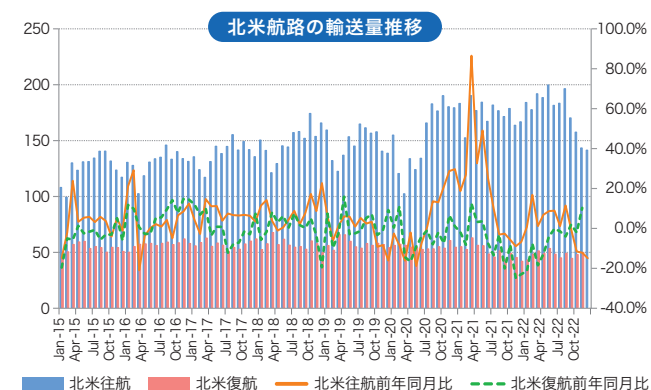
- 国内の大学、シンクタンクその他の関係機関と積極的に連携し、海外の海事・物流情報の収集や情報交換等を行っています。
- 国内の大学等の教育機関に協力し、我が国の将来を担う若い世代の我が国の海事政策への理解の促進等に貢献しています。

最新データの公表

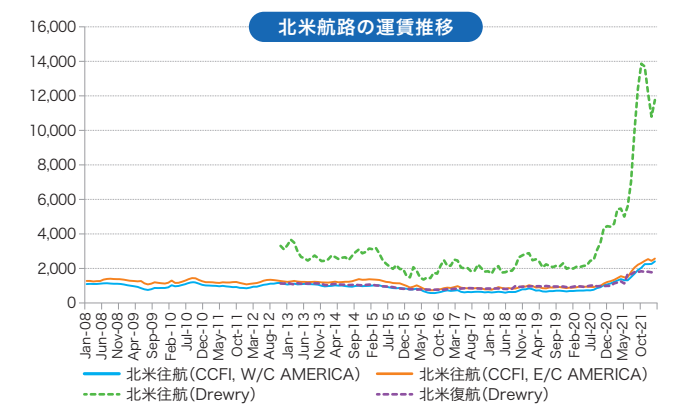
コンテナ輸出入統計の発表



北米航路や欧州航路をはじめとした世界の航路における国際海上コンテナの荷動き、運賃動向等について把握・分析を行い、主要データとともに毎月公表を行っています。



- 日本・アジア/米国間のコンテナ貨物の荷動き動向
- 日本・アジア/欧州間のコンテナ貨物の荷動き動向
- 日中コンテナ航路、アジア域内コンテナ航路の動向



情報発信

フォーラム・セミナーの開催

海事立国フォーラム

海事に関する最新のトピックスをテーマとして、講演やパネルディスカッションを通じて広く海事に関する理解を深めてもらうための海事立国フォーラムを、毎年1、2回開催しています。

第30回海事立国フォーラムin神戸2022
～今後の海事社会に向けた海事人材の育成と将来展望～
(2022年8月 ※会場及びYouTube配信で開催)



第31回海事・観光立国フォーラムin沖縄2023
「沖縄・美ら海の歴史と無限の可能性
～海事・観光の未来に向けて～」
(2023年2月 ※会場及びYouTube配信で開催)



ロゴマークについて

日本海事センターは、海事社会の中核的なシンクタンクとして、我が国の経済社会に必要な不可欠な海事産業界の発展に貢献すべく、業務の不断の見直しを進めながら、継続的な課題と新たな課題の両方に取組むこととしています。こうした中、職員の思いをアーティストの笹田亜希さんにロゴとして形にいただきしました。笹田さんは、今回の日本海事センターのロゴでは、「JMCのMCでは波の形(海)と空が一緒になり、Jの文字が先頭に立って、MとCを繋げる形にしました。特にCの文字は右肩上がりにし、良き事(安心や安全)が続くように、との願いを込めました。これからの発展をお祈りしています」と語っています。

ホームページ <https://www.jpmac.or.jp>

海事関係の各種情報を迅速に発信・提供しています。また、海事関係人材育成、海事教育に関するポータルサイトも運営しています。

2021年10月にトップページを含め大幅に刷新しました。



メールマガジン

日本海事センターの調査研究活動や海事図書館からのお知らせ、オススメ新着書、海事資料調べ方講座などの情報を月1回お届けします。

メールマガジン登録
<https://www.jpmac.or.jp/etc/mail-magazine.html>



JMC 海事振興セミナー

日本海事センターが取組む調査研究課題を含め、海事に関する諸課題をテーマとして、討議等を通じて、課題の掘り下げ、取組状況の共有、課題解決に向けた提言等を話し合うJMC海事振興セミナーを2022年3月から開始しました。

第2回
「RCEP下とポストコロナの東アジア物流の展望」(2022年6月)



第3回
「国際物流における我が国の貿易電子化の現状と展望」(2022年7月)



第4回
「洋上風力発電への海運業界の進出と将来展望」(2022年10月)



第5回
「船荷証券の電子化にともなう法整備と利用促進」(2022年12月)



(2022年度開催のみ掲載)



JMC 日本海事センター
補助事業



海事関係の公益活動を支援するため、補助金を交付しています。

2023年度の補助金交付団体

海事法制	(公財)日本海法会
海事労働	(公財)日本船員雇用促進センター (一財)海技振興センター (公財)海技教育財団 船員災害防止協会
航行安全等	(公社)日本海難防止協会 (公社)日本水難救済会 (公社)日本海難防止協会 (公財)海難審判・船舶事故調査協会 (公社)東京湾海難防止協会 (公財)海上保安協会 (公社)伊勢湾海難防止協会 (公社)神戸海難防止研究会 (公社)瀬戸内海海上安全協会 (公社)西部海難防止協会
海事思想の普及	(公財)日本海事広報協会 (公社)日本海洋少年団連盟
水先人養成	(一財)海技振興センター



船員災害防止事業・生存対策講習



海洋少年団活動

補助金を活用した事業例



海事図書館
Maritime Library

海事図書館は1974年6月に設立され、海事専門図書館として貴重な海事資料を豊富に取り揃えており、海事関係の方々のみならず、広く一般の方々にもご利用頂けます。

主なサービス

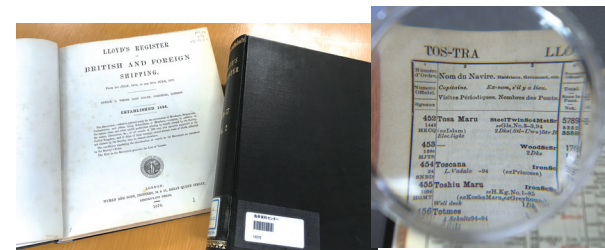
- 開館日時：月曜から金曜 12時～17時
- 複写サービスと貸出(図書・雑誌5冊まで)
- レファレンスは来館のほか、電話・メール・文書でも受付。

主な蔵書

19世紀中期以降の海事及び関連産業に関する書籍や雑誌を収蔵。

- 海運(1922<創刊号>～)
- 日本船名録(1890～1998廃刊)
- Containerisation international(1977～)
- Containerisation international yearbook(1972～2012廃刊)
- Fairplay(1984～)
- Lloyd's List(1961～)
- Lloyd's Register of Shipping Register of Ships(1876～)
- Shipping statistics yearbook(Bremen 1966～) など

日本海事センターのホームページから蔵書検索も可能ですのでご利用ください。
<https://www.jpmac.or.jp/library/>



(Lloyd's Register of Shipsより)

2022年10月より
Twitterでの発信を開始しました。

@kaijitoshokan



他図書館との連携

連携図書館

- 東京海洋大学附属図書館
- 富山大学附属図書館
- 神戸大学附属図書館
- 千代田区立図書館



上記図書館に加え、全国の大学・研究所の図書館との間で資料の相互貸借が可能です。

<https://www.jpmac.or.jp/library/library-tieup.php>

- 海事図書館の開館日、開館時間その他の利用方法等については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から変更している場合があります。利用に関する情報については海事図書館 ☎03(3263)9422)もしくは電子メール library@jpmac.or.jp へお問い合わせください。
- 海事図書館については、「すごい古書店 変な図書館」(井上理津子著)(祥伝社新書)で「調査30年「太平洋戦争沈没艦船遺体調査大鑑」も閲覧できる」等、紹介されています。